

巻頭言

戸谷陽子（お茶の水女子大学）

お茶の水女子大学では、2009年よりグローバル教育センターが主催して、世界8か国8大学の学生が参加し、サイバー空間で意見を交換する「多言語・多文化サイバーコンソーシアム（Multilingual & Multicultural Cyber Consortium: MMCC）を行ってきました。2011年に東北地方を見舞った「東日本大震災」とそれが引き起こしたさまざまな波及現象を受け、2012年度からは、このコンソーシアムを、震災のあった3.11の時期に被災国日本に各国の学生が集い、「東日本大震災の復興と私たち——ローカル／グローバルに考える」をテーマとして意見を交換する国際学生フォーラムへと発展的に引き継ぐこととし、このたび「第4回世界10大学合同国際学生フォーラム」を開催しました。

今回は、世界7カ国（韓国・中国・タイ・アメリカ合衆国・チェコ・ポーランド・ドイツ）、9大学から参集した17名の学生と本学学生ボランティアスタッフ20名が、被災地を訪問して実習を行った報告や、被災者と復興に関わる人々の話を聞くという体験を共有し、さらに本学においてプレゼンテーションおよび討論を行い、震災復興と国際連携についての理解を深め、同時に何ができるかといった提言を行いました。

参加した学生は、自国が見舞われた災害の状況を報告し、また、他国の災害の状況を知ることで、大学生として、災害地の復興にどのような活動が可能か、どのような貢献ができるかを真摯に討論し、さらに災害危機管理の知識と対応の実際について、各国が情報を共有することで大きく広がる国際連携の可能性についても検討し、その重要性を認識することができました。出自も母語も異なる参加学生が日本語および英語を共通言語として意見を交換し合うことで、さまざまな視点を提供・共有し、それまでには思いもつかなかったクリエイティブなアイデアが次々生まれるというエキサイティングな経験を通して、参加学生が、グローバルな意識とダイバーシティのもたらす創造性の広がりとその重要性を実感できたことがなによりの収穫であったと思います。

2012年、本学は文部科学省のグローバル人材育成推進事業に採択され、以来、学生のグローバル力を強化するさまざまなプログラムを推進しています。本フォーラムもこの事業の一環として位置づけられ、震災という我が国の現在および未来を左右する重大な出来事を、グローバルとローカル、両方の視点から捉え、未来につなげることでできるグローバルな若手人材を育成するという、本事業の目的に資する成果を上げられたことをたいへん喜ばしく思います。

フォーラムの企画・推進にあたっては、サイバーコンソーシアム開設以来、本学のグローバル力強化にたいへんな時間とエネルギーを注いでこられた、本学前グローバル教育センター長の森山新教授に、今回も多大なご尽力をいただきました。また、フォーラム進行の実務に貢献された森田桂花グローバル教育センター講師をはじめ、本学グローバル教育センター、グローバル人材育成推進センター、グローバル文化学環、国際課のスタッフのみなさんにはたいへんお世話になりました。さらに、お忙しいスケジュールを調整して学生の引率として同行してくださった、タイ・チェンマイ大学の西田昌之先生、韓国・釜山外国語大学の諏訪昭宏先生に心から御礼申し上げます。最後にフォーラムに出席するために震災や危機管理について熱心に調査し、フォーラムに臨んだ各国からの学生のみなさん、そして彼／女らを迎えるために、猛勉強するだけでなく、東京見学ツアーのロジ等、周辺企画も自ら進んで計画し、時間をかけて準備してくれた本学学生のみなさん、ほんとうにお疲れさまでした。

若いみなさんが、このフォーラムで得た貴重な経験と成果を今後も継続的な活動へと展開し、グローバルな舞台でさらに活躍してゆかれることを期待しています。

(グローバル教育センター長)